

## 【企画セッション・企画シンポジウムー1】

開催日時	2023年12月17日(日) 13時~16時
タイトル	厄介な問題に挑戦する境界知作業者とエンパシー能力について考える
企画責任者	(主) 松岡 俊二<早稲田大学大学院アジア太平洋研究科> (副) 辻 岳史<国立環境研究所福島地域協働研究拠点>
趣 旨	気候変動や災害対策などの社会問題は、トランス・サイエンス的課題あるいは厄介な問題であり、「科学に問うことはできるが、科学で答えを決めることはできない」と考えられる。こうした厄介な問題の解決策は、科学と政治と社会の協働による対話の場の形成と新たな知識生産に基づく成解を得ることであるとされてきた。しかし、どのように対話の場を形成し、対話の場をどのように機能させることが、民主的決定プロセスを経て社会が納得する成解の導出に繋がるのかは不明な点が多い。本企画では、対話の場の形成と進化における境界知作業者の役割とエンパシー能力のあり方に注目し、気候変動や災害対策などの厄介な問題の解決へ有効な対話の場とは何かを広く議論し深く考えたい。
内 容	司会：松岡俊二（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授） 報告： 1. 寺本 剛（中央大学理工学部教授、哲学）「対話の難しさと重要性：トランス・サイエンス的課題と厄介な問題」 2. 松岡俊二（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授、環境経済・政策学）「科学と政治と社会の協働による対話の場：1F 地域塾と福島再生塾など」 3. 辻 岳史（国立環境研究所福島地域協働研究拠点・主任研究員、地域社会学）「境界知作業者と誰か？：科学・政治・社会の協働による『対話の場』のキーパーソンに焦点をあてて」 討論者： 葛西優香（東日本大震災・原子力災害 伝承館・研究員） 前川直哉（福島大学教育推進機構高等教育企画室・准教授） 田村哲樹（名古屋大学大学院法学研究科・教授） 戸川卓哉（国立環境研究所福島地域協働研究拠点・主任研究員）

## 参加にあたっての注意点

## ＜参加登録・通信環境について＞

- ・参加にあたっては大会サイト（[https://www.ceis.or.jp/sympoinfo\\_2023.html](https://www.ceis.or.jp/sympoinfo_2023.html)）から参加手続きをお取りください（参加費は無料）。
- ・当日の運営・進行は各セッションの企画責任者にお任せしています。**セッション時の通信トラブルなどについては、大会事務局では対応できませんのでご了承ください。**
- ・安定したインターネット接続環境下で聴講ください。

## ＜その他＞

- ・**企画セッションの録音・録画・スクリーンショット等は、オーガナイザーの許可のない限り禁止といたします。**
- ・会場に入られる際には、「名前」をフルネームに設定してください。（イニシャルや苗字のみでの参加は会場運営に支障が生じる可能性がありますのでご協力ください）
- ・セッション中は、マイクを「ミュート」、カメラを「オフ」にしてください。
- ・質問時には、オーガナイザーの指示に従いマイクを「オン」にしてください。